



2025 年(令和7年)
1 月 第 33 号

発行: 上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下弓削 515
NPO 法人・頼れるふるさとネット気付
連絡先 TEL 090-8247-5279 (平山和昭)
Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp

自由参加型任意団体
上島町自治研究会・会則抜粋

- 目的
 - ①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
 - 活動
 - ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探知し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
 - ③会は定期的に自治研究会を開催する。
※現在のところ毎月第4土曜日、14時から下弓削515番地「やよみ亭」にて開催。
 - 入会/退会
 - ④入退会には特に条件を定めない。

上島町の選挙後初定例会議が12月10日にありました。12人の議員中、半数が新人議員となり、住民の皆さんの新人に対する期待感があつたのだと感じます。新旧問わず「公約詐欺」と云われないようにお願いします。



5人の新人議員が一般質問をしました。初めての質問で緊張していました、と云いながら、皆さん堂々と自分の思いを延べていたようです。少し声が小さいかなと思われる議員もいました。受ける理事者も、初め

新しい年の船出だ 新人議員に望む協働の町作り



写真説明: 12月18日開催された意見交換会で、
実装車両を見る参加者(せとうち交流館)

の質問者に対し、ここにこりツプサービスもあり初々しい初議会でした。大相撲で云うならば行司が「手を付いて」の仕切りかと思えます。

平成の大合併1町3村4島で上島町になり20年が過ぎ去りました。それぞれの島の住民の方々は現状をどの様に感じているのでしょうか。20年の歩みのなかで特に人口減少は全国同ようハードルの高い難問です。毎月の広報を見れば、誕生が少なく亡くなる方が多い。数字を見ただけで人口減が分かります。議会での新人議員の質問は、大なり小なりこの人口減少に関係あるものでした。

この難問を解決するには行政まかせでは厳しいかと思えます。協働のまちづくりです。議員と住民との意見交換、区長を中心に地域住民との話し合

いで「住民の声」を行政に届ける。理事者にはそれを真摯に受け止めて動くことが求められる。常々理事者は「議員は住民の代表である」と言います。確かに選挙で選ばれたのですから間違いありませんが、では住民の代表ですと言える議員さんは、現実には？人。地域の住民に議会報告等された議員が何人居たでしょうか？

新人議員さん、ぜひ住民には議会報告を含め懇談の場を通じ、分かりやすい情報提供を期待します。

4年後の笑顔を目指して行政の取り組もうとしているデマンド交通ですが、住む地域で住民の考えや要望、意見等が当然違います。既に土日がお休みというようにはなしてはサービスの本気度を疑いたくもありません。

地域住民の声をどこまで聞くか、聞けるか、届けるかについては、もうこのへんでやはり上島町内の地区名称とか役職名を統一してはいかがでしょうか。そうすることで全町で自治会というものの共通認識が構築できます。「魅力ある上島町に皆で取り組もう」と、傘寿超えは特に思い願うところですね。

一年生議員さん、傍聴席から超期待してますよ。

(弓削 浜村寿)

なんでも今更の疑問的

町のホームページを久しぶりに開いてみた！そこには町からのお知らせが記されていた。

「上島町一般廃棄物処理業許可に関する方針」とある。

要約すると(ごみの収集運搬、廃棄物処分業の許可について、それぞれ既存の業者で適正に処理されており、充分間に合っている)ので新規業者の許可はしない！(と云うものです。つまり現行の事業者以外はその仕事をやりたくても町は許可をしませんよ、という事です)

自治体の仕事をさせる時には、経費節減の面、公正の面、町民の負担減の面からも少しでも安くするように競争性の

ある公平な入札によって業者を選択するのが原則です。前政権時、競争性のある入札が行われた時には、既存の業者が約半額の金額で落札し請け負った事がありました。しかし、その後の競争相手のいなくなった契約では又、以前にも増して高額な金額になっていると聞きます。普通にしていても我田引水と思われがちなのに、何か特段の事情があるのかこの時期に、まるで競争相手を門前払いするような町の方針が示されたのはどのような経緯、事情があったのだろうか？町民の大切なお金を使うにあたり多くの人が納得のいく説明が必要ではないだろうか。

(生名 濱田和保)

上島町デマンド交通システム 実装設計案と意見交換会

上島町デマンド交通に関する住民意見交換会の傍聴に全行っている。運転免許証を返納すればたちまち交通弱者になる身にあつては無関心では居れないからだ。

昨年8月から9月にかけて65歳以上の高齢者対象のデマンド交通アンケート調査がされ、今年4月に結果が公表された。調査数約2837人、有効回収率約50.3%(結果発表。直近の第2回意見交換会はそのアンケート調査をもとに組み立てられたデマンド交通の説明と意見交換会だった。現在計画中の仕組みは岩城島全域と、弓削島の上弓削方面に居住する住民が対象利用者とされ、岩城島は立石港を、弓削島は下弓削港をエリア外特別停留所と設定。弓削港から立

石港までは路線バスでの移動。それぞれ7人乗の乗用車1台ずつで運行するというもの。

デマンド交通は縮む公共交通機関の代替手段として全国各地で導入が進んでいるが、課題は多そうだ。

意見交換会の参加者も、利用対象外地域では極端に少なく、対象エリアでも多いとは言えない。町の高齢者(65歳以上)の免許保有率は約6割で、うち60代の免許保有率は8割以上。車の保有率も8割以上(調査報告書)なので、今は交通弱者ではなくても高齢に達すると弱者になるのは確かだろう。

交通弱者対策は、単純に言えば便利なら使う。利用が少なければ廃される。千差万別の個人の都合とどう折り合うか。運用開始にあたり「使える」形態を編み出すしかない。調査データの解析も視点を変えてやってみる必要があると感じたことだ。(弓削 平山和昭)



合併 20 周年 進むべき道は？

12月8日付けの愛媛新聞「えひめ平成の大合併20年・自治体内分権を」というタイトルで藤目元県要綱検討委員長の記事が掲載されています。その中で、合併して市町の状態が厳しいのは当たり前だということを書かれていて驚きました。私はつきり今の状況が予想できないうちに合併したのかと思っていたからです。

記事には、合併のメリットとデメリットが予測されており、実際のその通りになった。

合併のメリットは、無駄を省く手段の一つとして経済的に効率が良いが、デメリット

として地域コミュニティをどうするか、という問題が発生する。よって解決方法として、
①政策をつくり運営する自立した専門的行政職員を養成する。
②自治体内分権として自治会・学校・公民館などへの権限

藤目節夫元県合併推進要綱検討委員長にみる 平成の大合併 メリット、デメリット論

デメリット解消にむけ自治体内分権を

や財源を与える。この2点が必要だった、ということでした。では、合併して20年。上島の姿はどうでしょう。

「行政に電話するとならしまわしにされる」という声があるところを見ると、無駄を省いて効率的にというのは別の意

味にとらえられているのか、と思えますし、いわゆるコンサルタントに注文がつけられる専門的行政職員も少ない気がします。むしろ自治体内分権が進んでいい方がいい。つまり合併しても、今までと同じことをしていたのでは、何もよく

ならないということ。実際話になったり先んずから自治体の事例をみると、たいいていの場合、今までのことからの脱却、国や県にとらわれない困難を可能にする本気の職員の活躍などが成功し、地域の活性化や住民福祉の追求

ができていないと感じます。であるならば、上島町がまず取り組むことはおのずと見えてくると思います。コンサルタント任せではなく、自分たちで悩み考え、汗をかいての事業案を作る。それがスタートです。上島町予算を覗けば、コンサルタントに委託する事業が目白押し。国がお金を付けてくれるから、コンサルタントはプロだから、と言いますが、「ここに住んでいる住民以上に上島町に関してのプロはいないのではないか。この町をよくするのは、私たち自身です。そしてそれを後押しするための行政の形をしっかりと作り上げていくことが必要だと考えます。」

(岩城 大西幸江)

防災士資格取得研修会に参加 研修から見えてきたことは地域減災対策 と、自宅の備蓄は足りているかでした。

町は防災士の養成に努め、担い手になる方を求めているとのこと。資格取得に向け、まずは12月初旬、町の60名を超える消防団の皆さんと普通救命講習に参加しました。胸骨圧迫の動作やAEDの使い方に、訓練用の人形を相手に実践しながら教わりました。仕事終わりに集合し、3時間余り皆さん熱心に取り組みされていて頭のさがる思いがしました。

翌日、翌々日と県の防災士養成講座が今治市総合福祉センターで開催され、町からは車2台で向かいました。町の職員さん始め、高校生も多数参加され、座学はしっかり9時〜17時までであり、会場には小学生からシニア世代まで120人余り。

今治市は、女性消防団も盛んなよう女性多めの印象でした。又、愛媛県は防災士の登録数が全国一多いとのこと。南海トラフ地震が起きれば、高知県に甚大な被害が及ぶ予測があり、愛媛県に国の支援が届く順序は後になるだろう。そんな地域事情に地域防災はより肝要と感じました。

教授の講話の他にワークショップが少し。地域の拡大地図に透明シートをのせて、災害時

【編集後記】
あけましておめでとう。お正月をお読者の皆様方はよいお正月をお迎えになられたことと思います。上島町自治研究会は住民自治意識の涵養を目指し、日頃メンバーが町の在り方等につきまわし、話を合したことを記事

危険予想箇所や避難出来そうな鉄筋コンクリートの建物、食料のありそうな事業所などを書き込む作業。その他、避難所開設にはスピードと初期設定が肝心と言ったことで、避難所見取図にも透明シートをのせて要支援者のエリア設定や感染症対策のゾーニングなどを想像しながら書き込みました。このシートを替えながら状況を想定する作業は、きつと被災時に効果を発揮するなと感じました。住まいる地域も人の状況も変化していきます。度々想定し直してみることは非常時の助けになりそうです。講座終わりに資格試験がざらりと行われ、解散となりました。

この度の経験から、防災や減災の意識は全世代に浸透してきていてと感じました。性別や立場を越えて「実践する防災」「生活の一部を減災につながる」そんな意識の広がりを感じました。

さて、自宅に帰り家具の固定も不十分。水と食料の備蓄は家族数×7日だそう。ペットは7日以上でしょう。出来ることからコツコツと実践しつつ暮らします。

(岩城 本田志摩)

にしてお届けしています。勢い辛口の見解が多いとは思いますが、これも可愛い子には旅を、の親心と観じ、ご意見等お寄せくだされば幸いです。月例会へのご参加も歓迎です。
ワトスン編集人(平山)

(2024年) 令和6年日本の今年の漢字は「金」だった。自治研メンバー達の漢字は？

命

今年は何事も一生懸命取り組んだ。世界や被災地では、命を削っている人が多くいて、日本国全体が危機的状況であると感じた1年だった。(幸江)

懸

一所懸命歩き回った一年でした。想いと懸隔した現実に向けぬ島魂に勇気をもらいました。諦め過ぎずにいきましょう！(志摩)

友

親友が亡くなり寂しくなりましたが、新しく友もできました。この世はうまくしたもので、共に釣りがとれるものですねえ。(隆彦)

変

気候変動で酷暑の後には極寒。物価高騰でやりくりが大変。政変が、世界のあちこちで勃発。(佳子)

元

令和6年元旦は能登北陸地震で幕開け。近所で長年お付き合いのテラ一福田元さんの他界は無念。通院はありますが一年間元気(壽)

呆

呆れること多かった年。特に正月早々の能登半島大地震の復興をほったらかしの岸田政権、それをそのまま引き継いでいる石破政権とは？。(和昭)

忙

気忙しいだけで何事も完全には出来なかつた一年でした。ぼうっとしてんじゃないよ、とチコちゃんに言われそう。(公子)

真

今年ほど真実は何なのかを考えさせられた事は無かつた。オールドメディア以外からの情報が出てくると、何が真実か解らなくなる。(和保)

私たちの「令和6年の漢字」

昨年それぞれが生きてきた
心意気が伺えます。(編集係)





地域のこれからを
考える

2025 年(令和7年)

2月 第 34 号

発行: 上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下弓削 515
NPO 法人・頼れるふるさとネット気付
連絡先 TEL 090-8247-5279 (平山和昭)
Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp

自由参加型任意団体
上島町自治研究会・会則抜粋

- 目的
- ①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
- 活動
- ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
- ③会は定期的に自治研究会を開催する。
※現在のところ毎月第 4 土曜日、14 時から下弓削 515 番地「やよみ亭」にて開催。
- 入会/退会
- ④入退会には特に条件を定めない。

みんなでつくるデマンド交通

年の瀬に第二回意見交換会が開かれたことはご存知だろうか。運行予定対象地域は上弓削と岩城となったが、一回目同様に町内五ヶ所で意見交換会が開かれた。

会の予告が間近だったことや、師走の慌ただしさや寒さ、感染症の流行による出控えなどもあったのか、参加者はごくごく僅かな人数となった。

町の運用骨子案に大きな変化は見られず、もつと利用が見込まれる層への聴き取りや現バス利用者に意見を表明してもらおう工夫が必要と感じた。

利用者の意向がより盛り込まれるように事前に働きかけは、これは好スタートに不可欠であり、一度始まってしまえば補正される可能性の低いことは、この数年間が示す通りだ。



▲他市でのデマンド交通試行風景。わが町もこのようなイメージである

発注先のネットヨタ瀬戸内の担当者は、運用開始後も常に補正しながら作っていく仕組みだと話している。この補正にも具体的な意見が欠かせない。

未だ幹線バス再編の具体案は示されておらず、これも期待されるどころだ。土曜日の時刻表再編によって昼下がりまで運行延長を検討中だとも聞く。あらゆる不便からの出控えは、心身共に健康増進を遠ざける。ぜひ出掛けたくなくなる交通システムを使う私たちの声でつくりあげる。そんな自治の気運をみなさんでもつ好機でもあるように思う。

県内では、全国初の自動運転バス車両の運行が開始されている。この町にも、新たな希望が加わるよう願ってやまない。
(岩城 本田志摩)

合併 20 年 住民自治は、 住民自らの手で 一つの組織に！

我々「上島町自治研究会」は住民自治に関心のある町民の集まりです。月一回の月例会で様々な私たちの住民自治の在り方につき意見が交わされます。しかし数式のように、それに事例を代入すれば正しい答えが出るというものではないのが「住民自治」の問題です。

通常自治とか自治会ときけば、例えば都市部では集合住宅や団地等の自主運営組織、あるいは町内会が思い浮かびますが、我が町にあつては「地区」「区」「分団」とか呼ばれる、今は同和問題(部落差別)との関係性から呼称されなくなつた○○部落、とか言つた集落単位を指すと考えればいいでしょう。その区や地区、分団では昔から自主的に共同作業等を通じ、地域内の秩序、伝統行事等の維持を行ってきました。そ

れはいまも続いています。村とか町とか市とかの行政単位が、どうすればスムーズな行政運営ができ、全住民の安心、安全な生活が保てるかを考えたとき、それぞれ住民自身による自主的な取り組みをいかに引き出せるかでその成否が決まるとも考えられます。たとえ近年も自主防災とかよく言われますが、ほとんどの現況は、いまだにお上頼み、お上主導の有り様ではないでしょうか。こ



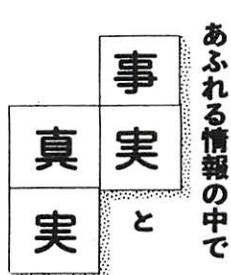
▲岩城小湊地区での自主防災訓練風景 (2023 年 10 月)

誰もが間違いない情報を受け取る仕組み作り

これは別名指示待ち状態で自主的とは言いにくい。平成の大合併で弓削島(含佐島、豊島)、生名島、岩城島、魚島(含高井神島)の旧四ヶ町村が合併し上島町となったものの、区割りやその呼称とかの運営形態は旧態のまま推移してきましたが、自治体は一つの組織である以上組織内に伝達する様々な情報を、目的に応じた正しく伝えねばなりません。そのため情報網を作り上げるには、単位組織体、つまり地

区、区、分団などの呼称、その組織内の役職名とか役割の一貫性、つまり名称とその意味に同一性をもたせることが求められているはずですが、この厄介な問題を早く解決しておかねば、今後の町の発展を阻害する要因になりかねません。このことにつき関係者の皆さんの合議の場が、自主的に持たれることが、まさに住民自治の第一歩だと考えます。

(弓削 平山和昭)



事実は一つしかない、真実は人の数ほどある！

昨年ほど、自分の持っている情報によって真実はこうだと思っている人同士の争いが見える化され、考えさせられた事は無かった。例えば兵庫県知事問題である。

ことは昨年の春頃から、テレビや新聞などの大手メディアの報道が過熱しだし、私たちが知るところとなり、何となく「兵庫県知事はなんてひどい人なんだ！」と思うようになっていた。そんな思いは、9月末に失職に追い込まれ、再出馬の為に、一駅前で道行く人に姿勢正しくお辞儀をしている姿を見た時、何か違和感と言うかこみ上げるものがあつた。その後の経緯は皆さんご存じの通りです。しかし、未だに知事を悪者だと信じている人達と、知事は正しい事をしていて悪者が悪い人達に陥られたんだ、と信じている人達による戦いが繰り広げられているようです。

なぜか？ それは、持っている情報の違い、それから見えてくる真実というものが、立場によって違うからだ、と思えます。事実は一つしか無いのに、自分の持っている情報によっては各人が考える到達する真実というものが異なるとなれば、真実イコール事実とはならない。今現在、少しづつ事実が明らかに出てきているようですが、近いうちに全容が解明され、事実に基づいた真実が明らかになる事でしょう。そう願います。

私にとってこのことは、反省の意味でも、大本営発表しか情報無く、まっしぐらに戦争に突き進んでいった過去の日本の姿を思い起こされた出来事でした。

私たちは今、様々な情報があふれる社会の中でアンテナを張り、様々な情報の中から事実を見極めたうえで真実にたどり着く力を養わなければなりません。わが町においても、同様間違いや嘘に惑わされることなく、事実に基づいた真実を基にし、より良い町となるように発信をしていかねばならないと考えられます。

(生名 濱田和保)



18歳成人を祝おう!

以前の成人の日」は1月15日だった。今は1月第2月曜日。そして成人は20歳から18歳へと法改正された。ところが近年成人の日は全国的に「20歳を祝う集い」とかで、あでやかな晴れ着等のニュースばかり。当の主人公である18歳を祝う話はありませんが、80年前からの歩みは、なんとなくわか

18歳成人は選挙権を与えられ、事件を起こせば大人並みの扱いを受けるといっただけで、彼、彼女たちの存在そのものを大きく扱う報道もない。これでは彼、彼女たちも大人としてその気になれないのではないのか?。いったいなんのための法改正だったのか?

18歳の多くが高校3年生。この時期受験などでそれどころではない?。とはいえ、新成人としての自覚、考えはもっているはず。20歳の先輩に言いたいこともあろうし、当然大人社会にも...。ここはぜひ18歳を大人として平等に扱い、新成人を祝う日を工夫で設けるべきではないだろうか。

(町内 某&風)

我が国も昭和でいえば100年、終戦後80年の節目の年となり、防空頭巾を被り、防空壕や民家の芋坪に逃げ隠れした記憶が、多くに残る幼児期でしたが、多くの戦死者、多くの国民の犠牲で今日があります。戦後の食糧難は毎日、芋、南瓜だったのが嘘のような飽食時代となりました。100年前は知りませんが、80年前からの歩みは、なんとなくわか

日立因島病院と因島医師会病院の統合で、又ひとつ日立造船の繁栄期の証が消え去るのを、寂しく無念に思いながらも、会社の地域への貢献に感謝をするところ。わが町が進める岩城と上司削のデマンド試験運行も、交通弱者には大事です。統合後の医師会病院に通院する患者さんへの便利な足の確保を切望です、人はみな、遅かれ早かれ〇〇弱者になります。(弓削 濱村 寿)



株式会社大阪鉄工所・因島工場附属因島病院 大正7年頃(現・因島病院前身)

昭和100年 戦後80年

元にはもどれぬ 古きよき時代

元日能登北陸地方で大暴れした辰の幕開けから1年、静かな蛇の幕開けでした。辰から巳へと聞くと、旧き俳優・辰巳柳太郎を連想します。1本の館が2億円以上、400グラムの雲丹が7000万円の高値に笑顔、鯛が袋に入り過ぎて漁船が沈没、に泣顔との明暗の新春の海でした。昨年末には北海道で鯛が大量死の記事を読みました。年々気温が高くなる温暖化は自然現象なのだろうか?。人々が便利さを追い求め次々と自然を破壊し、己を満たせば自己満足では駄目金です。戦争然り。今の世で3年も戦いを続ける国、何日も燃え続ける山火事で逃げ惑う人々。個人ではどうすることも出来ない現実です。

因島に日立造船、弓削島に弓削商船学校のあったお陰で、戦後の造船海運が活気のあった島として良き時代を懐かしく偲ぶところです。先日因島病院、ホテルみやじま、日立会館周辺地を久しぶりに街歩きしました。驚くほどの空き地の多さ。映画「悪名」のモデル、麻生イトさんゆかりの麻生旅館、喫茶店「田園」も更地でした。時代と云えばそれまでですが、近隣の島から造船工として汗を流し、家を建て家族を養うも、果立つ子はみな島を離れ、親も育つた実家も朽ちてた光景でした。立石港の対岸長崎港に残る古錆びた棧橋のアーチが昔を物語る旧き良き時代の名残です。

ハラスメント防止条例 まずは町民の共通認識確立が 求められているのではないか

上島町議会が「ハラスメント防止条例」を制定しようとして、12月の定例会を終了後の議員協議会で、突如徳永議員が、条例制定を提案しました。それまで、一度もまともに議論したことはありません。年明け1月16日の議員協議会で、条例案が徳永議員から示され、これで3月議会に上程しようと思うが、問題がないかと投げかけがなされ、たいして議論もないまま、とにかく作ることに先決とばかりに条例案上程ということになりました。

罵倒されたこともあり、百歩譲って、私が悪かつたとしても、大声で男性から罵倒されるのを止めることもできない。他の男性議員たち。小さいことまで上げればきりがありませんが、これが私の在籍していた頃の上島町議会の実態です。それをふまえるなら、ハラスメント防止条例を作るにあたり、まずはハラスメント学習を定期的に行うべきです。もちろん行政職員、町民も巻き込んだ学習機会が必要ですよ。

このことの何が問題なのだと思います。ハラスメント防止条例をなぜ制定することになったのかおわかりでしょうか。わたしが現役議員時代、ケーブルテレビの議会放送を観ている方から、あんな人権無視のひどい議会では大変だろうと慰めの言葉もいただいていた。しかし、このことからみても、何がハラスメントなのか、理解できていない議員が大半のなか、条例制定したとて、どうやって守るのか。

一方でハラスメント事件が発生したときは、第三者機関に訴えられるようにしておかねばなりません。議会内や役所の総務課など内々の体制でも取り上げてもらえねば何も改善できないからです。例えば、県の人権擁護委員や男女共同参画センター長。もしくは、人権案件を扱う弁護士さんなどに委員になっていただくのもいいと思います。女性議員が、もう2、3人いたらいいよねと住民の方からよく言われてきました。それを実現するために、議会内のハラスメントを解決しておくか、ねばなりません。ハラスメントを防止することよりも、とにかく条例作ることが最優先では、何の実効性も期待できません。(岩城 大西幸江)

議員控え室や研修のバスや、懇親会では、男性議員が「おっぱいだ」「アダルトビデオだ」という会話がなされて、口を閉ざさないまでも黙って聞いている男性議員たち。このような会話をした一人の女性議員としてどう立ち向かっていけるでしょうか。気持ち悪いと思っても声を上げられない。時には、長時間怒鳴られたことでもあります。周りには、男性議員がおり、最初の内こそ止めるような発言がありました。が、「いわせろ!いわなければ気が済まん!」と言われ、もうだれも止めることもなく、長々と

自治研月例会について 自治研究会の月例会は、基本毎月第4土曜日の14時から、下弓削515番地の、会事務所の「やよみ亭」で開催しています。自由参加型ですので、ふらりとお越しください。(ワトスン編集人 平山和昭)

●古民家やよみ亭活用者募集につきましては町内の移住・定住支援団体の「かみしよ町空家家よし隊」にもご協力ください。他に1軒の管理物件があります。お問い合わせは、090-8247-15279 (平山)まで



2025年(令和7年)
3月 第35号
発行:上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下弓削515
NPO法人・頼れるふるさとネット気付
連絡先 Tel. 090-8247-5279 (平山和昭)
Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp

自由参加型任意団体
上島町自治研究会・会則抜粋

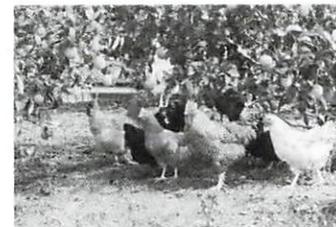
- 目的
- ①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
- 活動
- ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
- ③会は定期的に自治研究会を開催する。
※現在のところ毎月第4土曜日、14時から下弓削515番地「やよみ亭」にて開催。
- 入会/退会
- ④入退会には特に条件を定めない。

「令和のコメ騒動」などといわれるような昨今です。私の農業に対する危機感には25歳くらいからで、農業を何とかしたいとの思いから2008年、地元産産直ネットショップを立ち上げ、岩城島の産品を販売することを始めました。その後「おのみち家族の台所」というオーガニックマーケットに14年間かかわり現在に至っています。一貫して生産者支援のため、生産者と消費者をつなぎ、食で健康になることを目指してきました。

◎有機給食のすすめ 一次産業支援は、 地場産業振興に直結

議員になったとき一番に問題だと思ったのも、学校給食に食材を納めている農家さんの高齢化でした。政府は学校給食

強会に参加しました。有機給食を行って保育園の事例とか、小学校の総合学習の時間で行っている伝統食の事例など、子どもの発達段階に合わせた食について学ぶことができま



子どもの味覚形成に

子どもの味覚は6歳までに育つので、保育園の段階で有機給食を行うと、子どもたちの味覚形成はもちろんのことインフルエンザや風邪にもかかりにくくなるという。事例発表

ひとりひとりの力は小さくとも、まとまれば大きな力になる。私たちは、この島でどう生きていくのか、まだまだできることはたくさんありそうです。(岩城 大西幸江)

本を読み続けている。学術的な本でなく、小説やノンフィクションのような本だけだ。

ホームレスになった男が教団を作って大儲けをする話があったが、小説では帯木蓬生著



日本人の 神・仏と宗教観

生家(農家)には、神棚と仏壇があり、親は神棚に祈り、仏壇に祈った。子どもたちもそれに従った。宗教的に考えれば、二つの宗教が共存しているのはおかしい。でも、親は疑問も持たず、子どもたちに「しきたり」として教え、子どもも「しきたりだから」と思い、今でも守っている。

宗教について真面目に考えるようになったのは、「オウム真理教事件(1995年~)からだ。警察から児童相談所に「オウムの子」の保護依頼があって、私も担当した。世の中は騒然となり、TVを観ても新聞を読んでも驚くことばかりだった。何故、こんな怪しげな宗教に入ってしまったのか、しかも高学歴の人が。それから新興宗教に関する

『沙林(さりん) 偽りの王国』が面白かった。事件の全体像がつかめた。ノンフィクションでは、林郁夫著『オウムと私』。有能な心臓外科医であった著者が生い立ちから始まりオウムの軌跡、事件の真相を真摯に綴る。著者は無期懲役になり獄中でこれを書いた。このあとも「統一教会事件」が起こり、被害者が多数出ている。

母は「触らぬ神にたたりなし」と言っ、新興宗教は一切受け付けなかった。ことわざは庶民の知恵で、これが正解ではないか。神道と仏教が家の中で共存していても違和感のないアイマイな日本人、でもユダヤやイスラムのように争っているよりはいいと思う今日この頃だ。(東京 早川和江)

女性活躍の場が広がらぬ理由

3月8日は国際女性デーです。女性の社会的、経済的、文化的、政治的な権利を守り、ジェンダー平等の実現をめざすため、1975年に国連が定めた記念日だそうです。

0パーセント(2024年厚生労働省発表)に上ります。女性の実に3分の1が非正規労働者ということになります。

1970年代、日本でもウーマンリブと呼ばれた女性解放運動が盛り上がり、リーダーシップを発揮し、女性は家庭を守るべきという日本社会の根強い固定観念を打ち破ろうとしたのです。それから半世紀以上たった今、男女共同参画法も制定され、女性の社会進出の機会も保障されました。男性の育児休暇取得も推奨され、ジェンダー平等は着実に進んでいるかに見えます。しかし現実はどうでしょうか。

ここ上島町でも女性町議は相変わらずたった一人。もともと合併後の20年間、女性が複数立候補したことはなかった。家族や親族の同意が得られないとか、周りの目が気になるとか。おそらく女性だからという固定観念に妨げられてなかなか出てこれなかったのだでしょう。

大企業の大規模な賃上げは進む一方、中小、零細企業従業員、非正規雇用の労働者の賃上げはなかなか進まない。物価高騰の続くなか、格差社会の度合いは広がり、社会の分断はますます深まっていくように見えます。その中で最も立場の弱い女性にしわ寄せがきているのが現状でしょう。

今回の町長選に立候補した女性には適性、能力ともに優れているにもかかわらず、残念ながらその能力に見合った票を得られませんでした。議員ならいけれども「長」は任せられないという意見が多々あったとか。こうした固定観念を覆すまでにはまだまだ道は険しいようです。(弓削 古賀佳子)

1月26日、『かみじま福祉フエスタ2024』がせとうち交流館でありました。上島町社会福祉協議会の毎年のイベントで、この会に出席すると思いだされるのが2011年3月11日の東日本大震災です。その年の12月の福祉大会に、宮城県女川町の社会福祉協議会の女性職員さんが、津波で町も人も呑み込まれて行く現実を話されたことです。

私は若い頃の仕事の関係で女川町を良く知っています。当時は水産業が盛んで、特にサンマの水揚げではダンプカーにサンマをバラ積みで加工場に搬入です。道路のカーブでサンマがこぼれたのを住民がパケツ持参で拾っていました。カツオ船、牡蠣、ホヤ、海苔等、海のお宝満載の活気ある漁港でした。漁船が入港すると海鳥が餌を求め群がる町でした。

過日、昔の捕鯨仲間から、動けるいま当時の思い出を語る一夜集いの連絡が来ました。終点の女川駅に到着。震災から14年。車で町を一周するも60年前の町並みの景色は何ひとつ無く、新しい今風のお店が建ち並ぶ商店街でした。想像はしてはいましたが、津波と云う自然界の怪物が町全てを呑み込み、崩壊させました。町を一言で述べるなら、広い更地に町が

みんなで支えあう町づくり 被災地事例に学ぶ「地域で支え合う意味」

宮城県女川町の場合



↑津波で壊滅した女川町
←復興した現在の女川町



できた感じですが。潮の香りも海鳥群がる旧き町はありませんでした。観光客相手の商いは、陽が落ちたら静かな街となり、早く店を閉じるとのことでした。楽しみにしていたホヤを注文するも、今期は温暖化で水温が高く、ホヤ種も死滅したので

無いとのことでした。牡蠣養殖も盛んですが半月遅れの今に水揚げが無い、でした。新生女川町に笑顔の戻るのを祈りながら石巻行きの始発に乗りました。

「2024「みんなで支えあう島。ふれあいのまちづくり」災害に備える」では、これまでの災害、被災、支援を通じての意見交換がありました。殆どの議員さんが耳を傾け質問もされてました、

自分たちの住む地域は自分たちが守る。出来ることを、出来る者です。こうした身近な実情のトークを聴きながら、住民の代表である議員さんには、災害時を含め、地域のリーダーとして汗を流すことを切に望みます。地域は地域に住む住民で支え合います。ふれあいです。「笑顔のおはようから」です。(弓削 濱村 寿)

いきなスポレク・弓削の潮湯 町民の健康増進にもっと利用を！

何処の市町も保有する様々な運動施設は、住民が適度な運動を行い心身ともに健康を維持するために有効に利用してほしいからこそ、採算合わずとも多額の税金を投入している。しかし多くの行政に於いて財政難は喫緊の課題なので、有効活用出来てない施設は縮小や廃止の対象となつてゆく。それはわが町にあつても同様です。だからと言って過去の政権が苦勞して作った施設を容易に無くする訳にもいきません。

いきなスポレクは20何年も前にできた素晴らしい運動施設で、合宿施設を併設した野球場は、利用したチームの人達から一様に褒めの言葉を頂いています。

最近、社会人野球をという事で町内企業「イワキテック」さんが野球部を立ち上げたよう、積極的にスポレク野球場を利用しているようです。応援に駆けつけてあげれば喜ばれるでしょう。

このように立派な施設にも関わらず、残念ながら町民の利用が活発とは思えません。活発に有効利用される施設なら何が何でも設備の修繕や更新や最新化などにも力を入れられますが、利用者が少なければ町として施設の存続を検討しなければならぬ時が来るかもしれません。そのような事にならないよう町民の方々には、自分はどういう活用の出来るのか、見学でもよいので訪れていただきたいと思っております。

それは弓削の温浴施設「潮湯」も同じことが言え、役員関係者の利用があまり見られないのも残念です。職員自らが積極的に利用する姿を示し、一般町民に利用を促していたいただきたいものです。(生名 濱田和保)



▲ いきなスポレク全景

■議会ハラスメント防止条例案 拙速を尊ばず まずは十分な論議を

この2月17日付け愛媛新聞に「消防ハラスメント多発」という記事があつた。かいつまんで言うと、総務省消防庁による初の実態調査で、全国各地の消防本部や消防署でハラスメントが多発し、23年度で206人が処分された、というもので、ハラスメントの内訳や種類が紹介されていた。

ワトソン第34号では、わが町で「議会ハラスメント防止条例」が議員発議で3月議会上程されようとしている、との記事があつた。

議会のその動きに、2月6日、町内にある「ローカルデモクラシー向上委員会」という団体主催で、「先行事例から学ぶ議会ハラスメント条例の難所・要所」という、町民と当事者との意見交換会が、岩城地区で開催された。ワトソン編集人としては参加者からの意見に関心があつたので参加してみた。ところが参加者は全9名、うち女性6名、議員全員に案内したというが12人中、参加者はたった3名。

まあ予想はしていたが...。参考の条例案文を斜め読みしても、随所に？な部分があり、この草案を書いた人、ハラスメントというものをどこまで理解しているのかな、という感想。また町自体のハラスメント防止条例は制定されてない実態も明らかになった。ただし防止要綱はある。であるならば、これは議員発議の議会関連条例としてではなく、町条例として議会と理事者が協働して、上島町ハラスメント防止条例」を制定すべきではないのか。

先の新聞記事のみならず、いまだにすったもんだしている過日の兵庫県知事選挙についても、発端は知事のパワーハラスメントとされる。

子どもから大人の世界までハラスメントが蔓延している現代社会にあつて、町民を縛る条例を定めるのなら、ハラスメントの定義や実態把握、防止法、問題解決法など、検討課題はいくらもあるはず。

「防止条例は、無いよりはあつたほうが良い」的なゆる感覚で取り組めるほど安易な課題では無いと思うのだが。

（弓削 平山和昭）



地域のこれからを
考える

2025 年(令和7年)

4 月 第 36 号

発行: 上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下弓削 515
連絡先 Tel. 090-8247-5279
Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp
編集者 (会世話人) 平山和昭

自由参加型任意団体
上島町自治研究会・会則抜粋

- 目的
- ①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
- 活動
- ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
- ③会は定期的に自治研究会を開催する。
※現在のところ毎月第4土曜日、14時から下弓削515番地「やよみ亭」にて開催。
- 入会/退会
- ④入退会には特に条件を定めない。

令和7年第1回上島町議会定例会が3月5日に開催されました。傍聴席に座り次々と席がうまり20人近い傍聴人に驚きました。自分の1票を投じた議員が一般質問をどのようにするのかと傍聴に来たのでしょうか。初めて傍聴に来た方も居たかと思えます。席が埋まる事に、何やら喜びに近いものを感じました。



▲議会傍聴席からみた会議風景(町ケーブルテレビの画面から)

議会議員は町民の為に働いているか？

新人議員を育てるのも先輩議員の仕事では？
いつも議会の傍聴席が満員になるように！

3月定例会は7年度予算の審議があるので、年4回の定例会では一番重要な会だと思えます。その責任ある会に欠席の議員も居ました。仕方無いと云えばそれまでですが、住民目線での厳しい云い方をすれば「喝！」です。

今回の議会運営委員会も傍聴しました。正副議長もオブザーバーとして顔をそろえての委員会でした。

フェスパの入浴料金の値上げ、それに伴う補助金の話ができました。副委員長が収支報告書も届いてない現状で、これでは審議の仕様が、どういわけか述べましたが、どういわけか聴き入れてもらえず1時間余りで閉会。新人議員から、こうして集うことが少ないので、詳しく十分話し合いをしましょうという提案もありました。閉会を告げた後なので、委員長が強制終了。

これが町民の代表である議員の議会運営なのだろうか？町民に開かれた議会を目指す議会基本条例があるにもかかわらず、です。最古参ながら議長としての資質を疑いたくなる一幕でした。

議員の半数6人が新人で、新人議員を育てるのも先輩議員の努めかと思えますが、その委員長を見てみると、これで良いのかと空しささえ覚えた1時間でした。その後日の全員協議会では、

このシーンはケーブルテレビでも放映されたかと思えますが、自分の支持した人物が、議員として町民の為に働いているかどうかの確認に、これからは傍聴席が満員、礼止め後はくじ引きで、なるように望みます。(弓削 浜村寿)

地域ぐるみで子どもたちを育てる、安心して老いられる環境づくりを



高齢者が半数を占めるこのまちでは、ダブルケア、トリプルケアが潜在的に多く存在します。「子育てをしながら親を介護している」「伴侶の介護をしつつ孫の送迎を担当している」など様々なスタイルや家族の関係性、ご近所との長い時間の中でのお付き合いや友人関係で、これまでに培った順繰りによって支えてきたものと思えます。

しかし、年齢層の分布に偏りが生じ、今、ひとりがケアするに余りある分量を抱えるケースが増えています。子育て世代の働きを支える保育以外に、子育て世代がする親の介護を

支える保育の必要性も増えています。通院や入院の介助に移動だけでも時間を要してしまう地域柄は所要時間が見通せないおでかけは、子たちの帰宅に間に合うか?!とハラハラさせられます。

また、移住などによって核家族で暮らす方たちにとって、特に乳幼児期の子育てで中や、2人目3人目を出産する際には、地域など周囲の助けが要るものです。これは曜日や学校の長期休みを問わず、常に必要のある事です。ましてひとり親世帯には手厚い見守りが欠かせません。現状として私たちの暮らす

地域はどうでしょうか。将来に不安なく老いることが出来るのでしょうか？安心して子育て出来る環境といえるのでしょうか？

人生の質に関わることで、住み続けられるかに関わる話です。自治活動の大切な一部分として、働き手に存分に働いていただける福祉サービスを地域がもつ必要性を痛感しています。(岩城 本田志摩)

自治研月例会について

自治研究会の月例会は、基本毎月第4土曜日の14時から、下弓削515番地の自治研究会事務所のある「やよみ亭」で開催しています。自由参加型ですので、ふらりとお越しください。そこは町なか図書室として児童書、おとな用の本も置いてあります。そこにもふらりとお越しください。

【編集後記】

米国トランプ大統領就任で世界が大きく揺さぶられている。一国のトップが交代するところまで揺れるのかと驚きの眼差しで眺めつつ、これまでの物差しが使えなくなる日が来るのかと不安でもある。国内では2馬力選挙など、本来想定していない法の隙間を突く行動が横行する。常識すらも崩壊しつつあるのだろうか、とも。(ワトスン編集人 平山和昭)



地域のこれからを
考える

2025 年(令和 7 年)

5 月 第 37 号

発行: 上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下弓削 515
連絡先 ☎ 090-8247-5279
Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp
編集者 (会世話人) 平山和昭

自由参加型任意団体
上島町自治研究会・会則抜粋

- 目的
- ①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
- 活動
- ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
- ③会は定期的に自治研究会を開催する。
※現在のところ毎月第 4 土曜日、14 時から下弓削 515 番地「やよみ亭」にて開催。
- 入会/退会
- ④入退会には特に条件を定めない。



昼休みの岩城小学校全景・にぎやかだった。

少子高齢化時代の学校

私だったら、今なら各島で一貫校とします。その後、どうしても人数が減るようなら、ひとつにまとめて一貫校にします。一貫校といっても、保育園、小学校、中学校の一貫校です。生名はすでに中学校がないので、保育園と小学校だけになりませんが、中学校はちゃんと連携した教育をして、スムーズに進学できるようにすればいいと思います。少ない人数でも、できるだけ学校を各地域に残すメリットがあると思っています。そもそも、上島町では各島に保育園から中学校までメンバーがほぼ変わらないというの

特集

わが町の学校等統廃合問題

上島町学校の在り方検討協議会が始まりました。皆さんは地域にどんな学校があったらいいと思いますか。

学校の統合は、もう避けては通れない

今までに何度か行政の呼びかけで学校統廃合問題が話し合われたそうです。行政からは「具体的には行政としてはどのように考えているんだかどうですか?」というかたちでの話は無かったようです。区長さんには「地域の想い、考えを取りまとめておいてください」と宿題があったやに聞きました。(何をいまさら!) 現在、上島町の人口は6千人を割ろうとしています。子供たちの人数もすごい勢いで減り続け、今や町全体で小学生が百七十名程、中学生が九十名程、小中学校全体でも二百六十名程です。ひとつの学校でも二百六十名程ではそれほど大きな学校ではありません。それが上島町では小学校

は、珍しくありません。であるならば、それを利用して一貫校にして、小一ギャップや中一ギャップが起きにくい教育環境を作ることは可能だと思えます。先生たちと保護者も関係性が作りやすくなります。インクルーシブ教育(障害の有無で子どもを区別せず、同じ場所で一緒に学ぶ教育)を指すという観点からも、保育園のころから保育士と教員が情報連携しながら子どもたちを見守り育てる。それは、小さいころから安心して学べる環境を作ることになりそうです。カリキュラムも一貫校ならではの取り組みをすれば、社会問題にもなっている不登校の問題や十代の死因が自死であるという問題も対策しやすくなるはずです。

私たち大人は、ついつい自分たちが育った学校を思い浮かべ、競争とか大人数を思い浮かべます。もちろん、メリットもたくさんあります。ですが、いま世界は20人以下の少人数教育。そして、インクルーシブ

教育です。日本は令和4年に国連から「分離教育を止めるように勧告」が出されています。少人数教育には、デメリットもあるかもしれませんが、そこは対策を立てていくことで、解決するしかありません。教育は、お金も時間もかかって当たり前です。令和のこの時代に対応した教育環境を整えて、緩やかに地域を守っていくために、いきなりの統廃合よりも緩やかに町の教育を世界標準にすることのほうが、子どもたちにとっても地域にとってもよいのではと考えるところです。(岩城 大西幸江)

迷走気味な学校統廃合問題

幼保育園にはじまる統廃合問題は、小中学校の統廃合問題に連なっている。これらの協議会や検討委員会等を傍聴していつも思うことはただひとつ、進め方の順番が逆ではないのか、ということだ。

かつては島ごとに自足していた子どもたちの教育環境が、国による地方自治に関する財政出動の緊縮で、結局は末端地方自治体の合併を余儀なくさせ、あまつさえ少子高齢化が急速に進行し、地方が疲弊していった。わが町も例外ではなく、21年前に島嶼部4カ町村が合併し越智郡上島町として再出発した。合併前から取り組まれていた4島を結ぶ架橋は、3年前の岩城橋完成で一応の完結をみたものの、その間の人口減少はとどまるどころを知らず、合併時の8000人余が現在6000人余。そのうち弓削商船高専関係の学生教職員数が、人口全体の12%を占めている有り様だ。

架橋が末端自治体の利便性と経済力を高めるといのは幻想でしかなかったが、それをいまさら嘆いてもはじまらない。公立幼保育園や小中学校の統廃合問題は、必ず出てくるに決まっていたのに、未だにまず「住民のご意見を伺って」いる状態だ。

本来学校運営は住民が受け持っているわけではない。第一義的に行政が、過去現在未来を見据えたマスタープランを立て、それを早くに示し、のちに住民の意見を聞く。そう進めるべきものだろう。(弓削 平山和昭)



生名小学校全景・給食が済んだと思われる時間帯に行ってみただけ校庭は静かだった。

特集

わが町の学校統廃合問題

未来を担う子どもたちに
新時代を切り開く力を



昼休みの岩城中学校・校庭は自転車置場で静か。

度に関係。一人ひとりを尊重しながら自律と共生を学ぶオープンモデルの教育(イェーナプラン)を実践。校区はなく、市内優先ながら全国から生徒の受け入れをしています。人気が高く移住定住にも貢献。

また、江田島市三高小能美島でも試みられており規模的にはこちらが近く、数年のうちに子どもたちの学ぶ姿に大きな変化を実感されています。

この他にも義務教育学校というスタイルも、過疎地域ではスリム化にひと役買っていきます。小中を6と3年に分けてしまふのではなく、一体的に捉え自由度をもつて、その時々子どもたちの在籍人数などを加味しながらカリキュラムを組み立てる事が出来るのも魅力です。つまづきの一つである中1ギャップを緩和する事にも有効ですし、保護者にとつて進学用品や制服の購入といった出費についても、在り方を再考する事で負担軽減を図ることが可能です。これと同じことが幼小間でも言えると思えます。

子どもたちの学びを中心に据え、令和10年度の加速度的な児童数減少に備え準備を進めるならば、尚更試行錯誤は早めが良いですし、この町独自の進

化を遂げることが可能になるのではないのでしょうか。全国的に少子化に伴う改革は進んでいます。遅れをとることなく、子どもたちの学びを前に進めていく為に、人数と場所に留まらない活発な議論を自治体、教育現場、地域の方々、

上島町の学校統廃合問題に思う

開口一番、早々に上島保育園、上島小学校、上島中学校にすべきかと思えます。誰しも認める少子の時代です。

以前から議論されてきましたが決定打が無く合併20年を迎えました。全町的には学年児童数、学年生徒数が30人から40人前後だと思えます。それに0歳児から保育園児も含めた人数を確認すれば、おのずから答えが出るかと思えます。該当者が孫やひ孫である世



弓削小(向かって左)、中学校。グラウンドは共用。

代の高齢者からは、学校を統合したら地域が寂しくなるとか子供の声が...云々も聞こえそうです、しかしそんな昔話を語る時代は過ぎ去りました。少子高齢化の現実を見据えれば、理事者(町執行部)の決断ひとつだと思います。

岩城橋が開通し4島の行き来が便利になりましたが、同世代の町民が集うことがあつても相手がだれだか分かりません。将来「上島町民の心はひとつ」を考えるならば、統合が一番望ましいと思います。町民の代表の方々に見聞を聴くまでもなく、0歳児から義務教育に通う児童生徒のいる若い子育て中の児童の方々意見も聞き、送迎含め行政の手厚い応援を考えるのが一番かと思えます。

を知りたがっていました。施設内に切符販売所があることを伝えましたが、念のため自分も確認してみると、その時点で次の船便は一時間半後。また窓口は、次回到着が1時間以上先だからか、閉じておりました。券売機は設置され

小さな工夫の積み重ねで、
インバウンドツアーと
地域をつなぐ種まきを!



最近きになること

ちこち周回していましたが、他のサイクリスト達は、彼らが外国人だからか特には話しかけることもなく眺めておられるだけでした。見かねて声をかけてみるので、船便で今治に行きたいので時刻や乗船手続き

ていましたので待ち時間や切符購入について方法を伝えその場を後にしましたが、こうした外国人旅行者が増えている傾向があるのなら、もう一手間かけてみるのもよいのではないかな、と感じた次第です。例えば、自転車ハンガー

近辺や港鉄柱に掲示してある地図の横とかに、英語訪問するインバウンド者の傾向によつては多言語ののちよつとしたガイド、施設内に時刻表があること、有人窓口ないしは券売機でチケット購入できることを添えておく。時刻表や券売機には英語表記もしておく。切符売り場を閉じている間に問い合わせたいことがある場合に備え呼び出しボタンなり連絡先を窓周辺に添えておくなど、小さな事で工夫や改善を積み重ねてゆくことで将来の上島町や周辺島々にとつての大切な種蒔きにもなるのではないかと思つた次第です。ともあれ、今回のゆめしま訪問は天候にも恵まれ、充実した時間を過ごすことができました。

(ワトスン一読者・千葉)

合併から20年。いま町は子どもたちの教育環境について、数の減少と質の担保を論拠に統廃合をおぼろげに描いています。この陣取り合戦的な「どこに学校を残すか」という話ですが、果たしてこれで足りる話なのかどうか、疑問を覚えます。

この町が存続の危機に差し掛かるこの時に「教育の魅力化」はラストチャンスではないかと感じます。特色ある「少数を生かした教育の魅力化」で人口増を実現している自治体は身近にあります。

例えば、福山市立常石とともに学園。準備期間を経て令和4年

ワトスン編集室御中、

ワトスンを興味深く拝読させて頂きました。この度、機会あつて岩城島に寄つた際に少し感じた事があつたので寄稿します。

3月29日に、積善山の桜を見に行く為に岩城を訪れました。桜は三分咲きといったところでしたが、天候はまずまず、穏やかな空気の中、展望台から眼下に広がる瀬戸内の風景に癒されました。その後、岩城港の観光センター売店に立ち寄りしました。施設入り口前には自転車用のハンガーも備えてあり、サイクリング普及に注力している上島町と感じ入りました。既に何台かが駐輪していましたが、そこへ二人連れの外国人サイクリストがやってきました。最



▲岩城橋・岩城島からの入り口



▲生名橋・佐島からの入り口



▲弓削大橋・佐島からの入り口

上島架橋の完成をみて考える

よくも悪しくも現実とどう向き合うか

平成の大合併で弓削町・生名村・岩城村・魚島村が合併して 20 年。旧町村時代に策定された上島架橋事業は、2022 年(令和 4 年)岩城橋の完成をもって終了した。およそ半世紀を費やした大事業ながら、その間、国内は少子高齢化の波が洗い、自治体運営は厳しい現実。我らは如何に生きべきか？

【橋の名称について】

上島架橋の 1 番手弓削大橋は 1990 年から下部工事に着工し、1996 年完成。生名橋は 2011 年、岩城橋は 2022 年完成。

橋の名称は同じ斜張橋ながら、単体では弓削大橋が一番短いのに大橋、他の 2 橋は〇〇橋。理由は出自だという。弓削大橋は鋼製斜張橋で鉄鋼会社が施工。他の 2 橋はコンクリート製斜張橋で中央部は鋼製だが他はコンクリート。土建会社の施工。橋名は出自の身分差を示し、「鉄は国家なり」思想の名残だとか。

上島町の夢のかけ橋も岩城橋開通で魚島を除く 4 島が繋がりました。『ゆめしま街道』と名付けられました。便利のいい人、便利が悪くなった人それぞれでしょう。高齢者免許更新に久しぶりに今治の船にお世話になりました。船の窓ごしから弓削大橋、生名橋、岩城橋を含め遠くに見える『しまなみ海道』の橋、最終は来島大橋です。これら橋の開通までは島に住む住民は船が頼りの生活でした。今治尾道航路全盛期はどちらの港も賑やかでした。橋の開通で、特に今治の銀座通りを含め寂しさが目につきました。「船は橋には勝てん」の言葉を聞いた覚えがあります。が、残念ながら事実でしょう。車に乗れる人は橋伝いに、時間関係なく行動でき便利となり、当然日常の生活も観光地の宿泊施設も大きく模様代わりとなりました。宿泊が日帰りになり、便利の裏に泣く人、笑う人、です。

『国民宿舍ゆげロッジ』を運営していた頃、弓削商船の入卒業式に出席の父兄が宿泊依頼の電話をくださったとき、夫婦が別々、他の方との相部屋ならお受けできますが、と伝えると、それでもかまいません。と、そんな時代もありました。橋の開通で宿泊先が遠方でも当日間に合う便利さ等々を思い浮かべながら、船中旧き時代の回想です。若い方々ならスマホの 1 時間でしようが、ぼんやり思い起こす時間もまんざらではありません。便利とスピードに対応できない、しない、できない、高齢者も居ます。どうぞ優しく丁寧にお願い致します。その年齢にならないと理解できないこともしばしばでしょうが、聴く耳があれば近づけることはできます。それがこの町に住んで良かった、に通ずるのでは、と思う高齢運転者です。(弓削 浜村寿)

この町で良かったの架け橋へ

二酸化炭素の削減が世界的課題となり、車線を削ってでも自転車道を増やそうという動きが趨勢である時代に、上島町は自転車、歩行道を削り、車道を広げる工事。後ろからくる車が怖くてもう自転車では渡れない。最近橋の上を散歩する人の姿もみかけなくなりました。もちろん、実際の、車の交通

八月からデマンド交通の試験的運行が始まりますが、デマンド交通を取り入れませんが、という形だけのものに見える。土、日曜、祝日、早朝、夜の運行は無し。これではまったくバスの補完にもならない。小手の修正ではなく上島町全体の交通網をどうしたらいいのか。今からでも町の交通課は真剣に取り組んでほしい。まずはバスの時刻表をパターン化してわかりやすくする、小型化して停留所を増やす。日曜、祭日も運行する。そこから始めてください。バスが、身近なところを、決まった時間に走っていてこそ人は乗るのです。(弓削 古賀佳子)

橋は架かったけれど...

2011年、三年半を費やした生名橋が開通した。因島に住んでいた私はさらに便利になる、と橋の完成を楽しみにしていた。当時の弓削島にはフェリー、高速船それにホワイトドルフィンもあり、気楽に訪れることができ、弓削島は本当に交通の便の良いところでした。ところが2016年、念願の弓削移住を果たしてびっく



2025 年(令和7年)

7 月 第 38 号

発行: 上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下弓削 515
連絡先 Tel. 090-8247-5279
Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp
編集者 (会世話人) 平山和昭

- 自由参加型任意団体
上島町自治研究会・会則抜粋
- 目的
 - ①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
 - 活動
 - ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りで寄与する町民の自主的活動を応援する。
 - ③会は定期的に自治研究会を開催する。
 - ※現在のところ毎月第 4 土曜日、14 時から岩城 4780 番地 Npo うみ事務所にて開催。
 - 入会/退会
 - ④入退会には特に条件を定めない。

量も増えており、事故防止のためには二車線化が必要だ。たろうとは理解している。だが、そのことが歩行者、自転車にしわ寄せされるのはおかしい。岩城・土生間のフェリーも岩城橋の完成と同時に廃止された。立石港が島外への唯一の玄関口になれば車の交通量が増えるのは当然。事前にわかってはいたはずだ。橋から歩行者や自転車を排除するならば、その代替案も用意されているべきだった。バス交通の充実はもちろん、立石港以外の航路の開拓とか、やれることはいろいろあったはず。

橋でつながって

交通が不便になつた矛盾

島々の交流こそ町の未来像

見えてくる課題をどう解決するか

私たちの生活の中で橋の通行は避けられない状況になってしまいました。ですが、依然として最後は船に乗らねば、町から出ることはできません。町内が橋でつながることで失ったものを憂いても仕方ありませんが、今になるまでにもつとやれることはなかったのか、と感じるところです。

全部の橋が架かったからと合併20周年記念イベントでだんじりの交流もし、20年の間に、徐々にではありませんが交流は生まれ、私も弓削や生名で友人や知人が増えました。そういう意味では、人の輪が広がり、知らない世界や新しいことに触れることができ、世界が広がったように思います。

一方、不便になつたと思うこともあり。まずは交通網。バスは走っていませんが、タイミングが合わなかつたり、時間がかかりすぎたりして、やはり車は手放せず、子どもたちも含め免許を持たない人は、移動に困っているという話を聞きます。

もともと、上島町は、島ごとに生活が成り立っていました。保育園も学校も公共施設も島ごとに使いやすい形で配置されています。架橋以前は船での移動が主だったので、それに合わせて集落が広がっています。ですので、船便が減つて陸路(バス)で、いつても、案外と不自由です。ほかにも、橋でつながったからこそ、保育園や学校の統廃



▲維持費高騰と採算面から廃止が取り沙汰されている潮湯(しおのゆ)

合問題、潮湯の廃止問題などが浮上してきたと思います。それは、つながったことよって移動が簡単になり、人も少ないし、ひとつにすれば、まとめればいいよねってこと

ゆめしま海道全線開通とその後

2022年3月20日、全線開通の日、岩城橋を渡るうとする多くの車の列に並んでいました。前夜の打ち上げ花火を観ようと TENT を張り、まだ肌寒いキャンプ場で家族4人と犬1頭で一夜を過ごしたことは、少し無謀だったかな?と思ひ出されます。

この日辺りから、わが家の移住計画が進み始めます。橋が架りたての島に住み、離島の暮らしが変わりゆく過程が感じられれば興味深いな、と思つたことでした。

『なんでも鑑定団』は続けて観ている。この番組の主役は爺さん達だ。男には稚気がいつまでも残っていて笑ってしまう。「ボットンと一軒家」も面白い。これは宮本常一の『忘れられた日本人』のTV版だと思う。一軒家に住んでいる人の人生が語りのなかに鮮やかに浮かび上がってくる。やはりニュースやドキュメントのような番組だけでは物足りない。

ドラマや歌のようなフィクションの世界も楽しみたい。これは感情を豊かにしてくれる。面白い番組に当たらないのは作り手の問題でなくて、私の感性が鈍くなってしまったからかもしれない。推薦したい番組があったら教えて下さい。

(東京 早川和江)

この頃のテレビから世界を覗きみる



4月はTV番組も変わる。朝ドラの「あんぱん」は面白そう。新作ドラマの1回分は出来るだけ観ているが、続けて観たいと思うものに当たらない。

相変わらずTVからトランプが叫ぶ。「日本は米軍の駐留軍費負担をもっと上げるべきだ」と。これって「思いやり予算のこと?」。

新聞に「在日米軍駐留経費負担2,110億円」とあった。この金額がどのくらいなのか、私には見当がつかなかった。しばらくして渋谷区広報に「25年度渋谷区予算合計1,981億円」と載っていた。これは渋谷区民24万人の、医療からゴミ処理までの全生活を支えている金額なのだ。それよりも多い金額を負担していることを知り驚いた。関税交渉の一番手に日本が選ばれたことは、日本はアメリカの言いなりになるからと思われているからではないか、と私は懐疑的になる。

【編集後記】

ワトスン第38号をお届けします。都合により6月配布は休刊させていただきました。第37号からは特集記事として毎号テーマを定めての記事です。重複する話柄になりがちとは承知ですが、見方を変えれば重複する話柄だからこそ、そこが問題の核心につながっている部分だと考えます。今号は上島架橋の完成を見ての各記者の思いです。ここでも重複している部分こそが、また多くの方々の目に見えている課題、

安全面に関しては、船以外の出入りが叶うことで防犯上の安心感は一減りしたと感じるという方もいます。高校生の方々にとっては、現状の町内や土日模試や振替休日間のイレギュラーに対応できないバス便がないことは変わらないので、乗り遅れたら代わりがないという点で、船と変わらずバスも緊張感があるのかなと感じます。部活や塾となると諦めざるを得ない現実もあつたり、家族の送迎が頼りとなると、核家族の共働き世帯や、ひとり親世帯のしんどさが顕著です。生活や文化的側面や情報量様々近代化についてはゆっくりにした面を残しており、島時間は健在ではないかと思えます。

今後この架橋で四島の文化が影響し合い、生活圏としてどこまで存続できるか、です。安心して暮らせるだけの福祉がこの町の産業として歩みを進める事を期待します。(岩城 本田志摩)

月例会会場変更のお知らせ

7月より自治研月例会を事務所「やよみ亭(弓削)」から、岩城4780番地「NPO法人うみ(小漣)」の事務所で開催します。どうぞご参加ください。



2025 年(令和7年)

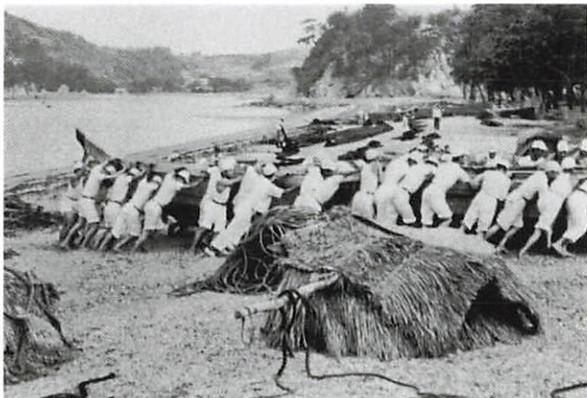
8月 第 39 号

発行: 上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下弓削 515
連絡先 Tel. 090-8247-5279
Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp
編集者 (会世話人) 平山和昭

自由参加型任意団体
上島町自治研究会・会則抜粋

- 目的
①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
- 活動
②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
- ③会は定期的に自治研究会を開催する。
※現在のところ毎月第 4 土曜日、14 時から
岩城 4780 番地 Npo うみ事務所にて開催。
- 入会/退会
④入会には特に条件を定めない。

特集3 この町の住民自治を考える 住民がどう考え、どう動けば 住民自治機運がたかまるのか?



▲在りし日の弓削商船学校生徒たちの地域貢献風景
弓削松原海岸における漁船の陸揚げ作業に生徒が協力

毎年の町内一斉清掃に思う 生徒・学生さん達の参加もアリではないか

自分たちの住む地域は自分たちで守る。地域の清掃活動もその一つかと思えます。

清掃活動をしていると、そこは県道なのでは?、と言われることがあります。大きな事業には国、県から予算が下りなければできませんが、県道であれ町道であれ、住民が清掃活動をする、そういう少しぐらいのサービスをしても良いんじゃないの、と思うときがあります。

この度の町内一斉清掃では弓削日比地区の商船高専学寮から校舎までの通学路が、私らの受け持ちエリアでした。ここはいつか来た道、懐かしい道。20年以上前、還暦の集いで「還暦を期に何か社会貢献しよう。できる者で出来ることを」と話し合い、同級生有志でのニコニコボランティア清掃活動がこの通学路で始まりました。ある年のこと、清掃活動を終え、

わたしたち大人にとっても、今の暮らしは以前にはなかった新しいフェーズです。過疎や不便さが暮らしにくさに拍車をかける。物価高に収入が追いつかず、米を買うに事欠く時代。そんな前代未聞に向かう今、

と。また好循環を維持していくことは一朝一夕に成りません。休まずに積み重ねる。そんな弛まぬ努力が今の「地域自治」を体現し、「住民自治」を紡いでいると感じます。休まず諦めず、今この時を考

こども議会
開かれる

★8月5日13時～
町議会議場にて

〈町議会初〉 理事者へ 子どもたちからの 一般質問あり

え続けられる地域。そんな地域はきつと次世代が戻って来たい場所になつていくのではないのでしょうか。

わたしたちは子どもたちにもどんな未来やどんな社会を見せたいか? 身近な家庭や地域社会は、見せたい姿に近いでしょうか? 地域の暮らしやすさの為に

住民自治はなかなか大変ですが、考えられるのは住民自身一人ひとりの感じる力、考える力、選びとるセンス、一歩を踏み出す勇氣、それが若い世代からも始まっています。(岩城 本田志摩)

皆と別れ、帰宅後のテレビに映る「映画のロケ?」と思わせた映像を忘れません。大津波が、何百年も続いた地域を一番みに破壊しているではありませんか!。東北大地震3・11。あれから15年余り。早いか遅いかは人それぞれでしょうが、見慣れた景色も近所さんも、伝統行事もみな新しく一からの直出しとなったのです。住民自治も、日頃の当たり前の生活を取り戻すための活動から、災害に遭遇しないに越したことはありません。しかし今一度、若いも若きも自分の住んでいる地域を見つめ直してはどうか、と思うところがあります。

空き家の多さ、高齢者の多さ、地域構成員の減少等々、仕方ないで済ませて良いのだろうか。例えば先の町内一斉清掃。地域の清掃活動への協力や、弓削高校の寮生さん、商船の寮生さん含め、学校への協力とお願いしてはどうでしょうか。そうすることが地域と繋がり、笑顔の挨拶に変身すると思います。

このたびの私の私共のエリアでは商船の寮生さんが応援に来てくれ助かりました。旧くは商船の学生は「商船の生徒さん」と地域の方々から崇められた時代もありました。

高齢化の進むなか秋季例大祭への協力も、ルール創りをすれば可能と思うところがあります。弓削高での3年間、商船での5年間、縁有って上島町での青春の1ページです。出来たら楽しい思い出の一つにしてはと、思うところです。清掃に応援の寮生の皆さん、ありがとうございます。(弓削 濱村壽)

【編集後記】

ワトスン第39号をお届けします。今号は住民自治とはなにか、をテーマにしました。住民自治は速く戦国時代からのテーマであり、一揆や宗教もありました。百姓一揆や宗教にからむ一向一揆など、私どもが中学生時代に習った過去歴史が、実は今現在、目前に一揆の動機としてあったものとしてみえている現象ではないかとも思われます。住民自治とはなにか。じっくり考えてみたいところではないでしょうか。

2025年第27回参院選挙がおり、政界の様子も、さて住民の皆さんの方のお眼鏡にかなったものとなつたでしょうか? もしそうでなければ、はどうするか、です。

(上島町自治研究会・世話人兼
会報編集係 平山和昭)



2025年(令和7年)
10月 第40号

発行: 上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下弓削 515
連絡先 TEL 090-8247-5279
Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp
編集者 (会世話人) 山平和昭

自由参加型任意団体
上島町自治研究会・会則抜粋

- 目的
①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
- 活動
②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
- ③会は定期的に自治研究会を開催する。
※現在のところ毎月第4土曜日、14時から下弓削515番地 自治研究会事務所にて
- 入会/退会
④入退会には特に条件を定めない。

持続可能な地域とは

『消滅可能性自治体』にカウントされている上島町。この町はどうシフトすれば持続可能だと評価される自治体になれるのか、と考える。

なぜ間もなく消えてなくなる自治体だと評価されるのか。

なぜその最期を、さらに引き寄せるような動きになるのか。

なぜ方向転換ができないのか。今わたしたちは、私たちの生活を守るために考える必要に迫られていることを、住民レベ

ルで感じとれているだろうか。自治体が消えるとはどういうことか。いまいちど想像してみよう必要がある。

特集4 地域のこれからを考える

学校の在り方検討委員会第3回の会議で、教育課から、「令和10年に小学校を1校、令和11年に中学校を1校に。ただし魚島は除く、という方針が示された。

教育で特徴のある町を目指す

学校の在り方とは、財政が厳しいからとか施設の新旧やグラウンドの大きさだけを話し合うものではなく、学校の中身つまり将来にわたって子どもたちにどのような教育を提供するのか、もつと言えはこの町の将来をどのように描くかということを考える場であるべきだと思っている。

実際、前回の在り方検討委員会の提言の中には、「通学方法や地域と学校の関わり合いなどの懸案事項に加えて、学校の設置場所や通学区域、小中一貫教育・イエナプラン教育等の新しい時代の学校の在り方についても具体的な提案を基に協議が進むよう留意する」と書かれています。しかし実際には財政が厳しいので1校を話し合うこと、場所の選定のみを話し合う形になっていて、提言にあ

る小中一貫校やイエナプランはどこに行ってしまったのか。保育園、小学校、中学校の代表者たちは、1校にすることへの不安や、拙速な議論への疑義を口にしているが、なぜか年長の区長たちが耳を貸さず押さえつけてしまいかたがたで進み、しかも地区住民や、他の役員の方たちの意見を聴いている訳では無いが、と自ら言う。これでは議論は深まらない。

委員が「様に口にする「子どものため」というならば、お金のことはいったん横に置いて、一番最適な教育体制はどういうものがあるのかを見出すのが順序ではないのか。

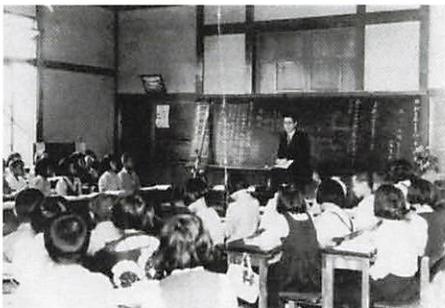
小中一貫校、イエナプラン、シユタイナー教育など、すでに日本で行われている様々な手法を検討比較し、目指す教育ができる形を選択する。

次に選択した教育体制を実

現するためにどうすればよいかを話し合う。本気で話し合えば、なんとなく通う学校ではなく、通いたい、通わせたい学校像がみえてくるはずだ。

特色ある学校なら移住が増える可能性も十分にある。人口減の歯止めには学校の果たす役割は大きいと考える。

学校教育は、行政活動の一つなので、日本全国どこであつても人が減れば統廃合やむなしとか、大人教での切磋琢磨が成長につながるという論議になりがちだ。しかし、世界を觀れば少人数教育が当たり前で、今



昭和52年時の弓削小での授業風景

の暮らしに対策する予算は遠のく？究極にインフラが失われ、人が住めないだけでなく暮らしさえ叶わない？空っぽの島は間もなく寂に戻り、遠くから眺めるだけの景色の一部となる？

現実には目近に近づいている実感が昨年度だけでもグッと増している感じだ。果たしてそれで良いのか。島の外から、島にゆかりのない方々が警鐘を鳴らしてくれているのに。

行政は、とにかく人を呼び込みたい。観光レジャーで賑わいをと言うが、そんな段階はすでに過ぎたのではないのか。むしろ呼び戻したいのは、ここで暮らす住民。ここで暮らしたいと思う人々だ。暮らせない町を訪れようとする観光客は居ないだろう。今やキャンパーでさえ環境の整ったキャンプ場を選ぶ。この町の産業はこの町の暮らし自体だと言えり。住民福祉をしっかりと下支えする行政力のある地域。そんな好循環のあるところが選ばれていくのではない。

持続可能性が高い自治体、地域について、あなたはいかがお考えですか？

(岩城 本田志摩)

や30人学級の一クラスに1割以上の発達特性を持った子どもたちが在籍すると言われている。この状況を考えれば、わが町にあつてはわざわざ一つにする必要はないはず。複式学級をデメリットと捉える向きが多いけど、学力的には複式だからやりようによっては学力は向上するという。部活動の問題も、現状では同じ学年でチームを作ることとは不可能に近い。であるならば、できるだけ多くの子どもたちが、自己実現できる教育体制の確保こそ必要で、まずは1つにしよう。議論は乱暴だと言わざるをえない。

学校は地域に支えられ、育てられる関係。だから地域から学校がなくなることを感じたいと言ったりそれは地域エゴだというとならえかたは間違いだと思ふ。学校は、地域の人に愛されてこそ意義があり、学校の幸せは地域の幸せ。地域の幸せは「子どもたちを含めそこに暮らす人たちの幸せなのだ。

以上のことを踏まえ、上島町の学校の在り方検討は、委員だけでなく、教育の根本と地域の未来をもつとみんな考えているようにするべきではないだろうか。

(岩城 大西幸江)

老舗として

残せないのか潮湯

昭和45年7月15日「国民宿舎ゆげロッジ」が総工費8200万円かけてオープンしました。昭和56年7月9日(10日)の1泊2日で現天皇陛下(皇太子徳仁親王)が、お泊まりになり、神社、仏閣、史跡等、中世の歴史の勉強においでました。部屋は308号室で、食事にはイギリス豆腐、ぎざみ等を食されました。弓削ロッジは15年余り町営施設として営業していましたが、町営から民営委託となり「ゆげフーズサービス」が誕生しました。私はマネジャーとして勤めさせていただきました。当時は造船、海運に陰りがあり、お隣の因島日立造船が有明工場に移転、因島含む周辺の島々に厳しい風が吹き荒れた。(島の灯が消えた)でした。

てました。当時海水を利用した施設は珍しく、ゆげロッジの宿泊客も利用した記憶があります。ゆげロッジは老朽化で建て替えとなり、今はフェスパと改名し営業しています。潮湯も老朽化に伴う修理費がかさみ赤字経営となり、行政は廃業を考えています。潮湯存続の署名活動に署名させてもらいました。この施設も健康増進に役立ててもらおう施設として今日まで良く頑張ったなアが実感です。股関節手術、腰痛等と潮湯でのリハビリが非常に術後のケアにありがたいと、感謝の言葉を何人もの方から聞きました。因島の方が、自分の浴用道具を入れた手提げ袋を持ち、家老渡フェリーで渡る姿を見た方も大勢居るかと思えます。そうした感謝の声を広めると同時に住民も、健康増進に一度は行こう、仲間で行こう、と施設を支える気持ちが大変ではないでしょうか。



かつての国民宿舎弓削ロッジの温浴施設「ゆげトピア」の姿

その後ゆげロッジは浴場を改築し、「健康増進センターゆげトピア」を併設、町民の健康増進に力をいれました。間もなく弓削に、海水を利用した施設「潮湯」を建

特集4に よせて 地域のこれからを みんなで考えよう

2009年2月発足した上島町自治研究会(以下自治研)は自由参加任意団体で、その後途中から事情により休眠状態でしたが、2021年10月に再開、一度の月例会で話し合われたことを記事にし、メンバー手配りから町民の皆さんに地域の人と一緒に考えていただきたいというのが、2022年創刊の「ワトスン」の創刊趣旨でした。

上島諸島のうち旧4ヶ町村が合併し、長年の取り組みであった上島架橋も完成し合併20周年を迎えました。しかしそ

海水なので何年経てば修理費が厳しいのは当初から認識していたと思います。しかし収支改善のためのいろんな方策を試したという話は聞いたことがありません。「老舗」なんとなく魅力を感じる言葉です。熱い思いで建てた施設です。老舗の潮湯にならないのかな。露天湯で美女5人が笑顔で写っていた広報が懐かしいです。(弓削 濱村寿)

の間ご他聞に漏れず、わが町も地方衰退の目印である高齢化と少子化による人口減で、今はちよつと大きい村レベルの人口です。我々末端自治体に生きるものは、ことさらその影響を受けやすく、もはや従来型の行政運営、従来型の町民感覚ではこの趨勢を如何ともできません。ではどうするのか。

地域の改革を 目指すことです。

ところで言うところの改革は弱いところ、小さなところから始まるのが世の歴史の常であ

国に進出していたイギリスがなぜ植民地化しなかったのか。イギリス帝国主義には、投下資本に対しどれだけの成果が得られるかという冷徹な原価計算があり、戦時の中国の残酷さを知っていた。それに比し、奥地に侵攻した日本兵は、斥候たちの手足を切られてダルマのようになった死体がごろごろ道端に並べられているのを見て、気がおかしくなって残虐行為にはしってしまった。後進帝国主義国家日本は、先進帝国主義国家イギリスの分析力の何分の一も持たなかった。

以上で、私が学んだことは①国のトップに軍人を就かせてはならない。②核戦争阻止のための研究と人材の育成が必要。である。(東京 早川和江)



戦争を考える

したマッカーサーを罷免。トルーマンは「核のタブー」を作った。しかし被爆者への謝罪の言葉はない。あの原爆投下を支持する米国民は1945年85%、2024年56%になった。

帳(6/15〜終戦まで)を俳優たちに再現させたもの。昭和20年6月22日天皇が六巨頭を集め、戦争終結の意志表示をされた。その時、東郷がソ連を仲介役にと提案した。その後の経過が描かれ、8月14日臨時御前会議で陛下はポツダム宣言を受諾すると御聖断をされた。翌8月15日玉音放送。終戦。第二次世界大戦が終わった。二作品とも分かりやすく秀作であった。

原爆に関するもの。「ETV・ヒロシマからの手紙〜原爆を綴ったアメリカ人たち」原爆投下を命令したトルーマン大統領と軍幹部との駆け引きを初めて知った。三年後(1948年)原爆を軍による直接管理にするべきという軍幹部をトルーマンは拒否。1951年、朝鮮戦争に原爆投下を主張

猛暑が続く今年の夏、年寄りにはクーラーつけてテレビを観るしかない。今年は戦後80年ということで、戦争に関する番組が多かったので、それを観て過ごした。そのうちのいくつかの感想です。

太平洋戦争に焦点をあてたものでは、「NHK スペシャル・新ドキュメント太平洋戦争(1941〜終戦)」これは歴史の流れがよく分かった。「シミュレーション・昭和16年夏の敗戦(前・後)」これは各界の優秀な頭脳を集め「総力戦研究所」を作り戦争を予測させたもので、彼らが出した結論は「敗戦」。しかし採用されることなく、日本は開戦した。「ETV・昭和天皇終戦への道一外相手帳が語る国際情報戦」これは終戦時外務大臣だった東郷茂徳がつけていた手

この夏テレビや読書で私が学んだこと

林竹二の言葉です。とはいえ特定の人物が、長くひとつのことに携われば、ささやかといえども組織であるなら滞留も発生しがちです。これもまた世の常です。

そこでワトスンも第40号を一期とし編集係の世代交代で次の一步を踏み出すことにしました。

例をみても言えるでしょう。自治研は、そういう問題意識のもと、ジャンルを問わず意見をもち寄り論議してきました。「三人よれば文殊の知恵」。かつて伊呂波歌留多で、そんなことわざも学んだからです。さて、「学んだ唯一の証は変わる」と。有名な教育学者、

つてのもです。読者に影響あれ、かつ影響しながら地域のこれからを考えてゆけたらと考えます。どうか新態勢のワトスンを、もしかししたら紙名は変わるやもしれませんが「轟原のほど、よろしくお願いたします。(現・編集人・平山和昭・拝)